夕刊
磐城新聞
六月十日發行
發行所 磐城新聞社
（日曜祭日翌日休刊）

磐城歌壇のぞき

浦島與太郎

（その四）

次に白木英尾氏

○あいあいと湧いて來る人の子の悲哀―あゝおれもおまへも

○おれの白い灰柱をくずし乍ら呆々と32年が過ぎてゆくのだ（詩南車廿九輯）

磐城歌壇自由律のおん大將であるだけに、料理はうまいものである。だが、まだ突込む處まで突込んでゐない所爲か、彼の歌の向側には何んにも殘つてゐない。おしい人だ、もう少し藝術分野に於ける自由律の持つ特殊的役割について、みつちり勉強して貰ひたい。この人の指導下にある人と思はれる人に江尻莞子（齋ネム原斐子）なる女性がゐる

○いつとなく默しことほく去りし人ちかへよ戀よわれは忘れじ（詩南廿九輯）

○晴れ上つた夏井川の面に私の朝の感情がつつ切つてひた走る（詩南卅輯）

前の歌は定型、後の歌は自由律であるが、彼女氏の歌については言ふべき時期でないと思ふから批評としては避けてたくが、唯一言作者へとして言ひたいことは『白虎隊』の悲壯なる鬪士として世の反動的なる同情に甘へて自から過まれる立場を固執してゐる哀れさ、と言ひたい。何故なれば彼女氏が定型を脱して自由律へ轉向したことについては筆者も喜こぶ一人ではあるが彼女氏はむしろもう一歩進んでいさぎよく詩へ轉向すべき人であるからである。その他、萩原たけ、池上富司、熊谷企見子、山岸彩子、大竹秋平、戸部既歌、石川梅子、永山德一、武田あけみ、澤美枝、赤井嶽男、佐藤義家、渡邊喜美、鈴木秀子、根本橘月、吉田儀、田部君子、大平松夫、長瀨貞夫等々數へきれない程ゐるがそのうちおりを見てこれらの人々も、一人殘らずなで切るとして結論へ急がう。一度○○先生選の欄に入選したからと云つて大歌人ぶつてゐる。ゴン助の如何に多き磐城歌壇であることよ。この親方主義的磐城歌壇にあつて、この悩みを理解し泣涙し而もさう迄深く認識してゐるものはごく二三の歌人であらう。近く詩南車最後の業績を飾る代表歌人自選集が出版される筈であるが、この出版を機會になんとか一とふんばりを望むものである。詩南車解体後の磐城歌壇は、そしてその詩壇は何處へ行つた?。片寄耿二、小山田滋、吉田市、新妻久滿夫、白木英尾、高木直吉、佐川和弘、赤井嶽男、小濱牧泉よ何處へ行つた?、暴言多謝（完）（一九三三、六、六）

磐新歌壇

小山田滋選

青山貞三

○房總の海にて取りしか初夏の鰹はうまし貪り食ふ

○我が暮し貧しくあれどたまたまに鰹を食ふゆとりを得たり

○些の仕事をすれば忽ちに疲れしと云ふ父は老いたり

○肩揉めば眠けもよほす吾が父はこの幾年を働き縮く

○顏見せの人力車通れば忙しき仕事を止めて吾れは見るなり

新綠の旅

金成向峯

五月二十四日午前九時平驛發、郡山に向ふ。

五月晴の山河を車窓に眺めつゝ程なく汽車は小川郷を經て新綠の溪谷に入る。線路は餘程上り坂らしく機關車の音がはげしく反響す

窓より首を出して見る。

縣崖の若葉は陽の光りを浴びてどの木の間も明るく輝いて見える。樅の大木に滿開の藤を纏ひたるが車窓を過ぐる

對岸の溪に藤咲く車窓かな

溪谷を拔けて軈て大越あたり煙草苗を植ゑて居る

薰風や子を守りながら畑仕事

郡山驛に着茲に一時間餘り待ち合ひ福島行きの汽車に乘る。夏の雪を頂いた安達太郎山が遙かに見ゆる

安達太郎にまだらな雪や夏霞

匡救事業の新らしい道がこゝかしこに出來て居る

新道を切り開きたる若葉山

そちこちに幟を立てゝ、端午の節句も近づけり

松山に幟たてたる住居かな

午後四時福島市に着し金澤と言ふ旅館に投宿す

体くつろぎて夏山見ゆる二階かな

二日間産業組合聯合會の要を濟まし二十六日夕方金源をたちて飯坂に向ふ

電車に乘りて信夫山の麓を過ぐ、姿のよい赤松が岩山に林立してさながら築山如き風景を仰ぎつゝ夕晴れの平野を行く

軈て櫻桃のある畑を過ぎて飯坂十綱橋畔に下車す。石段を昇り改札口を出て橋の袂に立つ、對岸に並ぶ四階五階の宿の灯が水に寫りて川一ぱいに灯火がきらめくさまは流石に何んとも言へぬ綺麗な風景である

宿に着いて透明なる温泉に浴し宿の浴衣を着して落ちついた心になる

葉柳の宿の二階に落ちつきぬ

葉柳に瀬の音開く二階かな

溫泉の町のゆうべ靜かや閑古鳥

夕食を濟まして青葉の町を一人逍遙す

段々に青葉の中の溫泉宿かな

崖下に溫泉の宿や河鹿鳴く

橋に來て若葉の溪を覗きけり

トンネルを拔けて溫泉宿や若葉風

三階降る座敷や夏の川

翌朝小雨煙る中を此の美しき町に別れて電車に搖られつゝ歸途につく（終）

拈華微笑

◇けふ時の記念日に表彰さるる縣下四名中半數の二人が石城から

◇縣の豫算を壟斷すると石城が羨怨する連中、之の問題はどうか

◇小さくして大を求む。其れは反比例と云ふんだ

◇『正』の世の中に『反』は許されぬ存在

◇けふも亦石城郡が縣下一に就て萬丈の氣を吐く！

○……○

瓢簞

原田小太郎

志賀直哉氏の『清兵衛と瓢簞』讀みて

清兵衛よ
へうたんみがく
飯とよんでも
氣づかない
うらうらのびる
蓬ぐさ
雲雀鳴くのも
聞えない
へうたんへうたん
思つてて
學校ぎらひに
なりました

社會の今日

6月11日

△日章旗を以て本邦總船舶の記號と定む（安政元）△高松宮宣仁親王同妃兩殿下御歸朝（昭和六）△平價切下問題解決（同七）

○蝙蝠のとび行く末にふと見たる、一番星のかげあはきかな　鈴木まゆみ

時鳥夜啼きせざるは五月雨のふりつぐ山の寒きにやあらむ　―島木赤彦

職員修養調査　平第二校では職員が最近購讀せる書籍三種雜誌研究事項及研究題目を調査する事になつた

講談 劍火無情

(37) 津屋義人作　菅野祐作畫

罠に罹つた鳥（一）

結城の玉五郎は、松子と小萬を思川の佐太郎に托して銀次と辰藏が伴をしやうといふ言ふのも、地理に詳しいからと斷つて、單身柄木の鯉屋へ走つた、

佐太郎の妻お菊が、世間話の一つが濟むか濟まぬ間に表格子を引開けて、

『佐太郎自家にか』と言ひつゝ入つて來た二人は、八州の用聞き上州屋半三郎と

同じく金十の二人であつた

佐太郎は今、店の間へ出てゐた所だから、

『ヤア旦那方がお揃ひで、マアお登んなすつて下せえやし』

『早速尋ねるが佐太郎、其方が圍まひ居る田丸稻之右衞門の娘松子を此處へ出せ、隱し立すると爲にならんぞ！』

佐太郎は早くも覺つて、

『エ、あの女が……さうでしたかい、奧にゐやすから、お引渡しゝやせう、其麼事たア知らなかつた。だが旦那方へ言つて置きやすが。俺ァ決して田丸方ぢやありませんよ、豫て堀口の旦那からも言ひ聞かされて居るから、德川樣へ楯つく水戸の正義黨に味方するやうな俺ぢやねえ、何にも知らねえで自家へ置いたんだ。是だけは斷つて置きやす。何うか痛くねえ肚を探らねえやうに』

『イヤ神妙に能く申した。其儀は辰藏、銀次の申し口により承知致し居る』

『ヘエ！、そんなら今柄木からの途中で辰や銀にお會ひなすつたんですか』

『フム、結城の玉五郎を走らせたは當方の計略である。若し彼が居ると、江戸修行の達人、義に依て彼は田丸方に成つて居る。徒らに人を害なふと存じて先づ立退かせたものである』

『ナール程、判りやした。恨みに思ふは親分玉五郎だ。何で初めから斯うした人間だと、打明けて呉れなかつた。それと知りやア譬へ親分子分の仲でも、德川樣に刄向ふ田丸に味方するなど意見して、女を旦那方へ突出させるものを……』

切齒して口惜しがつた。そして言つた

『上州屋の旦那・田丸の娘ッてえのは姉妹ですか、二人とも奧に婦と話をしてゐやすから私が引縛てでも差し出しやせう』

『イヤそれには反ぶまい。女ながらも武藝堪能で江戸表にては數十人の圍みを切拔け目明し數人を害めたる松子今一人は何者か判らぬ、其方は先づ手出し致すな。いざといふ場合取迯がさぬやうに見張りを頼んだぞ』

『へエー大變な代物ですね、それにしちやァ貴男方の御人數が……』

『申すまでもない事だ、百餘人を以て當家は四方より遠卷きに致し、川筋には船止めを申附けてある。八州吟味方堀口甚五右エ門殿、小山驛捧鼻迄出役になつてゐる』

『大層早い手配でしたな』

『佐太郎、通常の大附け盜賊、屋尻切りなら其方の家へは踏込まぬが、何分輕からぬ罪人ゆゑ、奧へ踏込むに依つて決して惡く思つて呉れるなよ』

『へイ心得ました』

此一語の終らぬ中、平三郎金十は赤房の十手を構へて闖入した

店の間の囁きが低かつたのでそれとは知らぬ女三人靜かに話してゐる、其處へツと入つた二人

『田丸稻之右衞門の娘松子詮議の次第有之に依つて八州手先が出役致した、神妙に役所まで同道致せ』

ギョッとした小萬とお菊

松子はいつ何時、斯んな事のあらうも知れぬと豫期してゐるので

『松子とは妾である、他に同類は一人もない。何れへなりと同道致すであらう』

今までとは違つて凜として冒し難い態度、そして身の構へも違つて來た

平三郎は金十に目配せて

『怪しい連れの女是亦同道致せ』

松子は小萬を遮つて

『イヤ此者は何も知らぬ旅の道連れ結城の玉五郎に渡すまでは、何れへも同道は致させぬ』

此時金十郎は裏庭に向つて、呼子の笛を吹いた。

理髪合格者

郡下關係卅六名

去月二十三日から三日間郡山市公會堂に施行された理髪試驗受驗者三百二十七名中百八十七名が合格し昨九日發表されたが郡關係は左記三十六名である

平町理髮の部―（比佐）矢部正男（坂本）根本榮次郎（大谷）袋伸作、馬上一郎（石崎）佐藤富雄（宮川）木幡淸風（柏木）津村末治（木村）野崎秋光（小林）高橋五郎（安齊）安藤ウメ

平町結髮部―水野フユ方佐藤トク、大平ヨシ方大平ツネ、坂本ヨシノ方佐川富士子、佐藤ミネ方渡邊カネ、吉田ミサオ方早川キミ、今井ツヤ、手塚トヨ方手塚キヨ、會田タミ方鈴木千代　湯本町第二部―大川原幸三郎、佐々木定一、馬上勇三郎、豐岡ヤイ、菅野ナヲ　第三方部小名方面―平山美補、新妻貞雄、市村コト　仲田ハナ　第四部內郷―三森敏雄、池藤サツ　第五部好間―樂茂　四ツ倉町―古川英夫、根本太郎　圓太淸子　植田町―村井萬吉、木下敏雄、平孝一

四倉通信

○伊藤課長視察　縣商工水產課長伊藤秀吉氏は昨九日四倉漁業組合を視察海氣館に一泊歸任した

○只飲　四倉町本町料理店松ノ下事伊藤乙次郎宅に於て昨九日十五圓餘の飲食をなし逃走せる男あり其筋で搜査中

平町慶弔錄

▲死亡　堂ノ前一六須賀井一郎（四）

舊五月十九日　日曜　戊申　大安　滿　虛宿　新六月十一日

諸判定應需　東京市本鄕區湯島四丁目五番地　高島易斷總本部　神鼓舘

▲一白の人　大福の日何事にも機を逸せざる樣にすべし▲二黑の人　短慮なる時は事々物々成らず失敗に終らん▲三碧の人　取極め事は注意せざれば後に至り口舌あり▲四綠の人　げうかうなる日には非れども萎實なれば報あり▲五黃の人　調子に乘る時は思はざる邊より破たんを生ず▲六白の人　根氣强く働きて倦まざれば効果直ちに現る▲七赤の人　想ひを焦すのみにて北周窓の如く成ざる日▲八白の人　不得手の事を持ち込まれて思案に暮るゝ日▲九紫の人　物事成就する吉日旅行開店普請造作凡て吉

廣告

前田醫院　院長 前田淸美　植田町電話一二四

月掛提供
六月十日は時の記念日
十日ヨリ二十日マデ
腕時計記念セール
クローム側一割引…
小型置時計…貳圓より
金光堂時計店　平五丁目　電一九五

耳、鼻、咽喉科　氣管食道科　專門
平町南町（電一〇七番）
大和田醫院　大和田郡司
（自炊の便あり）

貸切ノ御用命ハ
ゼヒ三井自動車部へ
電話六八五番
乘合は　好間…合戶…澤渡方面行

磐城共濟病院　電話六四一番 二二四番
內科　小兒科　外科　皮膚性病科　產婦人科　耳咽喉科　X光線科　物療科　衛生試驗所　藥局
院長醫學博士 石山謙郎
醫局員 佐久間粹
副院長 有馬勇二郎
醫學士 近日着任
醫學士 有馬勇二郎
醫學博士 石山謙郎
技術員 工藤慶造
技術員 高後利雄
藥局長藥劑士 吉本孝平
助手 石山彪
事務長 鈴木寶雄
△診療時刻 午前八時より午後五時迄

生花教授
家元龍生派池坊
生花、盛花、投入自然
營業では御座いませんから趣味で御相手致し度うございます
平町仲町三
天水庵華道教授 岡田華悅

外科全般　醫學博士 渡部義夫
內科小兒科　女醫 渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
（入院應需）
渡部外科

專門大家が畢生の苦心
絕對の『治淋藥を完成』强力の注射原藥を內服さす
責任保證　リン病　消渇
創製者 間部
間部淋藥
初期にてツミいたみ、コシケある方は勿論ツマラヌ家傳藥危險な注入藥熱療器等に懲りた慢性患者は必ず此藥の卓越性を發見けんす
淋菌は此の藥位强烈でないと死滅しない。
（特長の一）此藥は性病ひ尿科の大家特に淋病消渇治療の權威東京銀座…間部醫院長間部かほる先生が畢生の研究の結晶なり
（特長の二）先生が病院で每日患者に使用してゐる獨特の注しや原藥を主劑として之に洋やくの粹が配され殺菌力强大なり
（特長の三）服用强烈な殺菌力を有する注しや原藥が全部尿に混り放尿每に尿道粘膜下の深部の淋菌迄撲滅す
（特長の四）患者自身の洗じよう注入は慢性やコウ丸炎又は婦人ならばうこうカタルになる恐ろしい危險があるが本劑は自然に內部からによう洗じようされ菌を一掃するから絕對其心配がない
（特長の五）じよう劑の藥效が强いに絕對副作用なく安心して服める
【註文】は來訪カワセ振替代引でまうし込次第急みつ送す
【藥價】一週（輕症）參圓　惡性（五圓）送料十二錢
（各種有名賣藥アリ）

一般藥品　賣藥化粧品　醫療器械
福島縣平町三丁目三〇
星チエーンストア平支部
ホシ藥舖　電話四二九番

內科、小兒科　市原卯太郎
外科一般、婦人科　市原陸郎
皮膚、外科、梅毒、淋疾病　市原三男
平町田町本通
（入院隨意）
市原醫院　電話一一四番

けふ時の記念

記帳生活と時間勵行

財團法人 生活改善同盟會から 表彰さる、高木（草野）稻葉（好間）兩氏

財團法人生活改善同盟會は今十日時の記念日に際し全國の時の功勞者と生活改善の功績者を表彰するが本縣からは赤木知事の推薦で個人四名と五團体を表彰することになつた、郡下關係次の如くである

草野村北神谷 高木誠一

記帳生活

明治廿三年以來父を助けて記帳生活をなし爾來これを實行し結婚費の節約にも努め今日の不況時に尙毎年數百圓の利益をあげてゐる農業者で農作物の改良、經營改善に努めてゐる

好間村 稻葉廣吉

時間勵行

明治三十年來、公私の集會その他の會合に一度も時間を違えた事なく冠婚葬祭の行事改善、敎育その他に對しその發展に盡力して功績多く公共事業にも率先して活躍し信望を集めてゐる、村議三期現在その職に在り今回も立候補した、好間村信用組合理事である

各學校記念行事

平町各中小學校では（磐中、平商磐女）講話（第一校）講話の後學校を基準として左記の如く時間測定をなした

磐女（十三分）舊城跡校長宅（十分）北目橋（十八分）停車場（十二分）鎌田橋（廿八分三十秒）役場（七分）片倉（二十三分）尼子橋（十一分）等夫々記念の催しあつた

過去の變遷を語る 第二校の時計展

藩公の調度其他珍品 門外不出の五十二點

第二校でも講話後講堂に於て時計品評及ポスター展覽會を開いたが時計は百年前安藤公が使用したと云ふ古時計を始めとし大谷、常盤屋からの出陳五十二種類に達し何れも時計の發達變遷を物語る逸品揃ひで當日の催し中見る人をして最も驚異の目を瞠らしめた

ポスター展

第二校入賞者

（一年）片寄カヨ子、片寄幸子、永山智子、馬目シゲ子、佐々木マサ子、桑田ヤス子、黑木雅子、草野トシ子（二年）太田ハル河田シズカ、草野榮子、中野珠子、堀久榮子、鈴木チヨ、白土ミク子（三年）高橋靖子、五十嵐スミ子、和田久子、柴田離苦子、端山ハツ子、長瀨多美、白土アイ子、有賀貞子（四年）五十嵐シノブ、木村愛子、古川トキ子、坂本カマ子、元吉八重子、高岡ヒサ、關內マス子、大島君子（五年）鳥海珠、齊藤ユキ、鈴木カメヨ、關內義子、佐川周子、端山多賀子（六年）後藤亭子、鯨岡富子、赤坂カツ子、小貞秋子、高階翠（高一）海老根悦子、井上國子、吉田孝子、永由三代子、小谷テル子、吉村ツネ（高二）難波ツネ、吉田コウ、薬谷タク子、高木セツ子

勿來トンネル進捗

豫定以前に完成

縣境勿來隧道は工費三萬圓で四月末來植田町土木請負業中山吉之助氏の手で鋭意竣功を急ぎつゝあり濱街道の重要道路として車馬の通行頻繁を極め非常な難工事なるに拘らず既に六分方の進行で豫定よりは遙かに早く竣功を見る模樣であると

勿來方部春蠶良好

二割增收の豫想

勿來方面の蠶況は目下五齡起き四日より二日位で給桑等も充分なる爲逸蠶更になく近年稀なる好成績で昨年より二割近くの增收を豫想され昨今の繭高に養蠶家は非常に意氣込んでゐる

平町に舞踊教授所

一般家庭の爲に――と 花柳氏開設の所懷を語る

日本舞踊協會員でその新作舞踊發表機關たる『おどる座』を牛耳つてゐる花柳德三郎氏は今回平町に家庭舞踊敎授所を開設する事になつたが地方の新進都市としてこうした方面の新らしい空氣に觸れる事を望んでゐる向も少くないらしい折柄同所の將來は相當の期待を以て迎へられてゐる、右に就き當の花柳氏は語る

『いみじき容姿を整へ、明るい健康と、落ちつきのある情操とを培はんとするのが吾等の所謂舞踊であります。たゞ舞踊と申しますと如何にも難かしい事の樣に思はれますが舞踊は決して吾々の日常生活と別個の存在ではありません、『舞踊を以て慌だしい現代生活の安息所とし度い』私は恁うした通俗的な信念から今回當地にこれを開設いたしました次第です、晩餐後の少女によつて行はれる均整のとれた手肢の律動的な跳躍こそ朗かな家庭の象徵で無くて何でありませうどうか舞踊を御理解下さい。云々

因に詳細は仲田町七二の同所に就て知られ度いと

第四校 敷地買收 方針決定

坪二圓乃至四圓で 地主と交渉を進む

平第四小學校建設委員は目下敷地買收の交渉を進めて居るが左記の如く總坪數一萬四千六百六十六坪を三萬七千六百六十四圓で買收する方針で坪當り五十錢の豫約金を來月末迄に支拂ふ事となつた

甲地二、六六六坪、坪四圓一〇、六六四圓 乙地六、〇〇〇坪、坪二圓五〇錢 一五、〇〇〇圓 丙地六、〇〇〇坪、坪二圓 一二、〇〇〇圓

第三校增築工事入札

十六名に指名決定

平第三小學校增築委員會は昨九日午後一時から議事堂に開催、協議の結果十三日午後一時から同所で前澤文太郎氏外十五名に指名入札せしむる事に決した、尙ほ建具類は別に分割入札せしむると

第一校で 動物飼養

―兒童にも奬勵―

平第一校では理科の敎材に資する一面兒童の情操敎育上兒童の動物飼育を奬勵し學校でも目下兎六羽、蛇類八匹、鳥一羽の外インコ、カナリヤ、雀及眞鯉、緋鯉を

紫煙に消ゆる五萬圓

バットの二萬圓を筆頭に 去月中の平管內消費高

水戶專賣局平出張所管內去月中の煙草消費高は五萬二千四百七十六圓で昨年同期より二分の千五十七圓を增した、之は四月中下級品の供給が圓滑を欠き其後一時に需要が激增した爲である、之を種別するとバットが依然第一位で一萬九千六百六十五圓、次が刻みのナデシコで一萬三千百八十圓、朝日八千七百圓の順である

人力車夫

梅雨を樂む 衰殘の哀愁を語る

乘合、貸切り自動車の進出に伴つて年々その範圍を蠶食されて居る平町の人力車營業者は現在十一軒車夫二十一名で收入としては三日に五十錢位が關の山で全く青息吐息の態であるが某車夫は

全く御話しにならず、わつちらの樣に妻子を持つてゝはほんとに鼻の下に追はれてじつとしては居られませんよ。マアあすから入梅でもある事だし幾分よくなる事とは思つて居りますが……と悄氣て語つて居た

田植手間賃半減

各方面の安い豫約に 鎌田立町邊の勞働者悲觀

郡下の田植は今月下旬頃から一齊に開始されるので平町附近の農村では今から鎌田、立町の勞働者達に豫約して居るが賃金は甚ゞ持男七十錢、女五十錢で男女各二圓五十錢にもなつた三年以前に比較すれば話しにはならず昨年の八十錢乃至一圓に比しても約半減されたので何れも悲觀して居る

託兒所續々開設

最近受付の郡關係五件

縣下の農繁期託兒所は開設新設合せて八日迄に百二十二ヶ所であるが八日受付けた郡關係の分は左の如し

△平窪小學校に於て十五日より十日間△小名濱町光心寺、十一日より十五日間△錦村小學校、十五日より十日間△平町九品寺、十二日より十五日間△山田小學校、十四日より十日間

父親の印鑑で騙り散らす

高久の房吉訊問

高久村大字下高久字前の內一二〇七前科二犯鈴木房吉（四二）にかゝる私文書僞造行使公正證書原本不實記載行使の事實訊問は今十日午前九時から平區に於て中島裁判長係り三堀檢事立會の下に開廷したが房吉は曾て父太吉の貯金通帳を盜み去る二月十三日頃太吉の實印が拂戾受領書の裏面委任欄に押捺されてあるを奇貨としてその印影及父氏名を冒書僞造し妻ツルをして一千四百五十圓の拂戾をさせた外父の所有債權たる田仲久左エ門より二百五十圓を取立て去る三月二十二日頃田仲より抹消登記を爲すに必要なる太吉名儀の辨濟受領證書及抵當權抹消登記申請の委任狀を要求されるや太吉の氏名を冒書、有合せの印を押捺して太吉名儀の金錢受領書を僞造交付し平區に於て抵當權を抹消する旨虛僞の申立てを爲さしめ因て登記簿原本に不實の記載をなさしめたるものであると

富岡の耕整疑獄公判

兩被告が犯行一切を認め 近く平支部で開廷

双葉郡富岡町大字毛萱字前川原二八同町耕地整理組合長佐藤萬右エ門（五八）の詐欺及平町十五丁目六ノ一縣農林主事補木村安三郎（五二）の公文書毀棄公印不正使用事件準備公判は今十日午前十一時から平支部準備室に於て中島裁判長係り門傳、眞木、大嶺の三辯護人列席の下に開廷、被告は何れも犯行を認めたので近く第一回公判を開廷すると

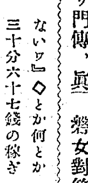
小名濱港灣改良竣工祝賀

工費三萬圓の七年度匡救事業として着工した小名濱港灣改良工事は三月末竣功したので十四日午後三時から新米で祝賀宴を催す事となつた

。。。。。。

磐女對第一バ球 磐女對平第一校のバスケツトボール試合は今十日午後二時半から磐女校で開いた

艶界黑白



◇『いまでは現役で無くなつたがあの人見たいに九クヮン八百メでもチト心細いが◇それかと云つてエスさんのやうに十八クヮン三百なんてのも此れからの暑さには迚もやり切れないワ』◇とか何とか三十分六十七錢の稼ぎなし乍ら話しの出つ組んだのが、不景氣の無風地帶で自らも任じ人もゆるすお紺とますみ◇どつちから云ひ出したともなく『貴方ならアたし達が中肉中ぜいよ』つてな調子でお互すつかり嬉しくなつてしまひ、其の結果『お座敷歸りにどつかで一盃やらないこと？』と云ふ處迄進行した◇『良いよ今晩はアタシが出しとくよ』とか何とか互に札びらな切り合ひ乍ら三二三屋から今流行のコーンボークを二十錢分買つて秋へ忍ばせ丸新アーケードの酒泉へ飛び込んで大にあふりつけた。とやら聽くがまゝな記す。

○………○

電柱に攀ぢ登つて 架線十數貫を盜む

玄人が共謀の犯行か？

神谷村鹽地內の東電所屬四番電線十貫目をはじめ平町九品寺前の約五貫目及町內數ヶ所に於て電線を切斷窃取されたが此程電工が北好間で拾得した盜難銅線の切り端により賊は斯の道に智識のある三四名共謀の仕業らしく之を目標に犯人嚴探中である

。。。。。

靑訓生演習 平商靑訓生三十餘名は今十日午前十一時から藤田敎官指揮の下に松岡公園を中心として發火演習を行つた

平商野球部指導者慰勞 平商では明十一日午後七時から野球コーチャー矢野幸男氏をマルトモホールに招き晩餐會を開くと

理髮合格者

一面に在り

濱三郡木炭移出商組合總會 十四日午前十一時から浪江町百足屋旅館で開

。。。。。。

平町土木委員會 明十一日午前九時から議事堂に開き工事上の打合せをなす

磐中入國記（三）

赤井嶽男記

第十三回生の卷 I

◇正鵠を得た輿論

問題に對する正確な認識は旋て正鵠を得た輿論を作り、その輿論は當の西村校長をしてその有する自信に拍車せしむると同時に監督官廳の輕忽な任免黜陟を完全に掣肘した。卽ち問題の全貌を知悉する此回卒業生及在校生の純眞な支援は、徒に舊師に眷戀たる先輩卒業生の校長排斥運動に掉ちを制した結果、當時西村校長の進退には前記の如く貧乏搖ぎもしなかつたのであると觀るが正當である。

◇輝く校旗と校歌

斯くして更に十三、十四の兩回卒業生を送り大正三年の九月揚土全學園の生徒に惜まれ乍ら禍中に去つたのであるが在任の初期同校長によつて創られ櫻章燦たる校旗は遺憾無く磐中健兒の矜持を象徵し或はほ

ある毎年の卒業式其他祝祭日に、將た又各種の競技場禅衆人環視の大圓劇場にいとも颯爽翩翻として之亦同校長の作に係る

峰は秀づる赤井嶽
水は淸し、夏井川
こゝ磐陽の學び舍に
あゝ樂し、吾等友がら

（縣師範學校敎諭渡邊貞雄氏作曲）と相俟つて如何に淸新潑剌のスピリットを注入しつゝある事であらうか、西村校長の磐中に印した足跡亦大なりと謂ふべしである

◇櫻章旗創製の由來

序に此の光輝ある校旗の由來を物語らう。（明治四十五年校友會誌沛錄）

―西村校長の苦心經營によりて校友會に於ける貯金を資として茲に我校の精神を宿せる金裝燦爛たる校旗成り、本年二月の紀元節を以て我等の眼前に現れたり、吾人は今更に校旗擁護の責任重きを感じ嚮つて校旗の名譽を輝かさゞるべからざるを思ひ、轉だ崇敬の念を起さゞるを得ず

五月六日平公園に軍人忠魂祭あり、校旗初めて校門を出で五百の健兒を隨へて肅々式場に至る、恰も園中の躑躅花、黃紫紅白妍を競ひ、校旗の金光と相映發して威風更に加はれるが如きは我等の特に快とする處なりき。云々

◇旗手は酒井乙組長

之より先三月二十五日第十二回生六十四名の卒業式が行はれた。首席は甲組長吾妻六郎（舊姓田子）二番吉田盛次郎（小川出身仙臺第一中學奏任敎諭文學士）三番外遊中の東京市技師酒井菊雄醫博、四番三井田川炭鑛技師工學士小野善七（平町長橋町）氏の順序であつたが、當日の校旗はその創製提唱者の故を以て五番の乙組長酒井淸氏が旗手として之を捧持した

。。家出 仙臺市南鍛冶町二七吉野運三郎（二八）は返濟金五十圓を懷ろに五日夜家出したが平町方面の知人を頼つた形跡あるので今十日關係者から平署に搜索方を願ひ出た

。。デフ 飯野村南白土金成アサ（八）は昨九日デフテリアと決定した

電話開通
五一五番
五丁目 小野呉服店

當選御禮

內鄉村會議員

島田兼吉
小松定次郎
加藤丈夫
宮本鐵太郎
三澤義則
田中宇一郎
上原四郎
佐川芳松
新谷彥資
小野昇
小島良利
金原喜一
猪狩喜平治
石橋弘毅
長谷川幾之助
湊慶三郎
田中義枝

謝近火御見舞

謹啓昨夜近火の際は早速御馳付御見舞を賜り且つ消火に御盡力被成下御蔭樣を以て鎭火致し候段有難御厚禮申上候一々拜趨御禮可申上筈の處混雜中御尊名伺ひ洩れも可之有候間乍略儀紙上を以て御禮申上候 敬具

昭和八年六月九日

株式會社 丸ほん商店
丸ほん家具製作所

火災御見舞御禮

六日の夜拙宅家族居宅の火災に際しては早速御馳付消火に御盡力被成下され且亦深甚なる御同情の御見舞下され候段誠に有難く奉深謝候一々拜趨御禮申上ぐべき筈の處混雜中御尊名御伺ひ洩れも有之可く略儀ながら紙上を以て御禮申上候

尙家族一同無事目下平町荒川淺次郎宅に避難致し居り候間御安心被下度候

平町六丁目 丹野英治